

麦類栽培基準

発行 五島地域農業振興協議会
ごとう農業協同組合

重点課題①
表面・地下排水の徹底

1~1.5mごとにサブソイラで地下排水と、播種と同時に溝を作り表面排水を確実に行う。

重点課題②
麦踏み・土入れ

十分な排水をした後、麦踏み及び土入れをして穂揃いを良くする。

重点課題③
雑草防除

除草剤の利用で雑草防除を確実に。雑草種子が混入した場合、ライスセンターでの荷受けができません。

重点課題④
赤かび防除

赤かび病防除の徹底。発生が見られると、出荷できません。

月	旬	生育相	おもな管理作業	管理作業の内容	雑草および病害防除		旬	月
					防除対象	薬剤名		
10	中	播種期	① 排水対策 ② 土壌改良資材施用	暗渠、明渠による排水。サブソイラによる耕盤破砕。土づくり資材を入れ、早めに耕耘する。	斑葉病、なまぐさ黒穂病	ベンレート水和剤20	中	10
	下		③ 耕起・整地 ④ 種子消毒・播種 ⑤ 施肥	砕土を十分に。条播。表面排水のための条間を予め確保しておく。(4~6条ごと) 基肥施用。				
11	上	発芽期	⑥ 除草	除草剤散布。播種直後~発芽前に散布する。	1年生広葉雑草	アクチノール乳剤	中	11
	下		12	① 排水対策 ② 施肥 ③ 除草 ④ 麦踏み・中耕土入れ				
12	上	幼苗期			① 施肥	基肥施用。多肥、遅い追肥は成熟期が遅れる。	赤かび病	トップジンM粉剤
	中		1	① 病害防除 ② 土寄せ ③ 排水対策		薬剤散布。発生初期に散布する。倒伏のおそれのある圃場だけ実施する。排水溝、排水路の整備。滞水させない。		
1	上	分けつ期			④ 雑草除去 ⑤ 病害防除	雑草がある場合、出穂期と登熟期に実施する。薬剤散布。開花時に散布する。	赤かび病、うどんこ病	トリフミン水和剤
	中		2	① 病害防除 ② 除草		薬剤散布。開花期の7~10日後に散布する。		
2	上	幼穂形成期			③ 病害防除 ④ 除草	カラスノエンドウを抜き取る。	赤かび病、うどんこ病	トリフミン水和剤
	中		3	① 病害防除 ② 土寄せ ③ 排水対策		適期刈取り、雑草種子の混入防止を徹底する。適正回転数で行う。		
3	上	節間伸長期			③ 病害防除 ④ 除草	乾燥は収穫後直ちに行う。急激な高温乾燥は避ける。	赤かび病、うどんこ病	トリフミン水和剤
	中		4	① 病害防除 ② 土寄せ ③ 排水対策		適期刈取り、雑草種子の混入防止を徹底する。適正回転数で行う。		
4	上	出穂開花期			③ 病害防除 ④ 除草	適期刈取り、雑草種子の混入防止を徹底する。適正回転数で行う。	赤かび病、うどんこ病	トリフミン水和剤
	中		5	① 病害防除 ② 土寄せ ③ 排水対策		適期刈取り、雑草種子の混入防止を徹底する。適正回転数で行う。		
5	上	登熟期			③ 病害防除 ④ 除草	適期刈取り、雑草種子の混入防止を徹底する。適正回転数で行う。	赤かび病、うどんこ病	トリフミン水和剤
	中		6	① 病害防除 ② 土寄せ ③ 排水対策		適期刈取り、雑草種子の混入防止を徹底する。適正回転数で行う。		
6	上	成熟期			③ 病害防除 ④ 除草	適期刈取り、雑草種子の混入防止を徹底する。適正回転数で行う。	赤かび病、うどんこ病	トリフミン水和剤
	中							

◎ 印は、必須の管理です。

赤かび病防除に努め、高品質麦生産を図ろう
毎年種子を更新し、品質向上に努めよう
排水対策に努め、収量・品質の向上を図ろう(硬質粒の防止)

1 圃場条件の整備

- できるだけ集約化し、湿害防止を図る。
- 弾丸暗渠など排水対策に努める。
- 土づくりに努め、地力を高める。
- 麦類は、多湿と強酸性では生育しない、pHは6.0~6.5に矯正する。

土壌改良資材施用基準 (10a当り)

一般地区	新規圃場整備地区
堆肥 1,000kg	堆肥 2,000kg
苦土石灰 200kg	苦土石灰 300kg
ようりん 40kg	ようりん 40kg

2 施肥量と施肥時期 (10a当り)

肥料名	基肥			成分量 (kg) N - P - K
	基肥	分けつ肥	穂肥	
BB284号	40kg			4.8 - 7.2 - 5.6
BBNKC3号		10kg	10kg	3.6 - 0 - 3.2
施肥時期	播種時	分けつ開始期 (12月下旬~1月上旬)	イチバンホシ ニシノホシ 2月20日頃 チクゴイズミ 2月25日頃	計 8.4 - 7.2 - 8.8 ※タンパク含有量及び容積重(粒強り)を向上させるため、穂肥を徹底して下さい。

3 播種時期と播種量 (10a当り)

- 良い種子を選び、うすめに播く。
- 播種時期が遅れたら、播種量を多くする(2~3割程度)。
- 種子更新を行う。

麦種	品種	播種時期	播種量
裸麦	イチバンホシ	11月20~30日	6~7kg
二条大麦	ニシノホシ	11月20~30日	6~7kg
小麦	チクゴイズミ	11月25~12月4日	6~7kg

*R.Cの移動に支障をきたしますので極端な早播き及び遅播きはしないで下さい。

4 品種特性 (主要農作物奨励品種特性表より: H19年3月)

品種名	早中晩生の別	播種期	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	倒伏程度	千粒重 g	単収 kg/10a	耐病性			備考
											うどんこ病	赤かび病	さび病類	
裸麦											中	中	-	・極端な早播きは避ける。 ・耐倒伏性は強いが、多肥栽培は避ける。 ・排水対策は十分に。
イチバンホシ	早	11/16	3/31	5/18	85	5.5	395	やや強	30.3	420	中	中	-	
二条大麦											極強	やや強	-	・莖立ちが早いので、極端な早播きをしない。 ・耐倒伏性は強いが、多肥栽培は避ける。 ・やや穂発芽性が弱なので、刈取りに注意する。
ニシノホシ	早	11/16	3/29	5/16	85	6.7	670	やや強	43.5	536	極強	やや強	-	
小麦											やや弱	中	やや強	・莖立ちが早いので、極端な早播きをしない。 ・多肥栽培を避け、適期刈取りに努める。
チクゴイズミ	早	11/24	4/8	5/30	83	8.2	350	やや強	39.4	441	やや弱	中	やや強	

5 除草剤使用基準

除草剤名	使用時期	対象雑草	適用土壌	10a当り薬剤使用量	10a当り希釈水量	使用方法 (総使用回数)	留意事項
トレファンサイド乳剤	播種後~発芽前	畑地1年生(ユクサ、カタクリ、アブラナ、キク科を除く)	砂壤土~粘土(礫土3%程度)	200~300cc	100ℓ	土壌表面散布 [1回]	・麦の萌芽後の処理は行っていない。 ・麦の生育中期からオオイヌノフグリ、ヤエムグラなどが発生した場合は、アクチノール乳剤を散布する。
アクチノール乳剤	麦の穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	畑地1年生広葉(カラスノエンドウ、ヤエムグラ、オオイヌノフグリなど)	全土壌	100~200cc	70~100ℓ	雑草茎葉散布 [2回以内]	・イネ科には効果がない。 ・雑草が4葉を過ぎると効果が劣る。 ・周辺の広葉作物に飛散しないよう十分注意する。

6 病害防除薬剤使用基準

適用病害名	処理時期	薬剤名	使用量 (10a当り)	使用時期	総使用回数
斑葉病 なまぐさ黒穂病	播種前	ベンレート水和剤20	乾燥種子重量の0.5%粉衣。	播種前	1回
うどんこ病	発病初期	トリフミン水和剤	1000~2000倍、120~140ℓ	収穫14日前まで	3回以内
赤かび病	開花期	トップジンM粉剤	4kg	小麦: 収穫14日前まで 大麦: 収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
赤かび病 うどんこ病	開花後 7~10日	トリフミン水和剤	1000~2000倍、120~140ℓ	収穫14日前まで	3回以内

7 適期刈取りの励行

- バインダー刈りは2~3日地干りする。
- コンバイン刈りは完全に熟してから刈り取る。
- 朝つゆがとれてから刈り取る。

品種	出穂後日数
イチバンホシ	50~55日頃
ニシノホシ	42~44日頃
チクゴイズミ	45~50日頃

8 検査規格

整粒 【最低限度】	水分 【最高限度】	被害粒等計 【最高限度】	うち異物	
			うち異種粒 【最高限度】	うち異物 【最高限度】
裸麦 1等	70%	13.0%	5.0%	0.5%
二条大麦 1等	75%	13.0%	5.0%	0.4%
小麦 1等	75%	12.5%	5.0%	0.5%

※赤かび被害粒の混入が認められた場合は規格外となります。防除を徹底して下さい。

平成19年10月作成